

平成 28 年 5 月 27 日

公開シンポジウム「健康な女性の卵子凍結を考える」を開催 ～今は仕事を優先したいけど…、少子化対策の切り札か？～

「卵子の老化」という言葉が一般にも広がり、年齢が高くなるにつれて妊娠しにくくなることが徐々に知られてきています。このため、将来は子どもを持ちたい健康な未婚女性が「今は仕事に打ち込みたい」、「今は適当な結婚相手がいない」などの社会的理由で卵子の凍結保存を行う例も増加しました。しかし、高齢妊娠などの医学的問題に加え、女性のライフプランへの影響、使用されない卵子の取り扱いなど、議論すべき各種の課題が発生しています。

岡山大学大学院保健学研究科は 6 月 17 日、本学鹿田キャンパスで公開シンポジウム「健康な女性の卵子凍結を考える」を開催します。本シンポジウムでは、健康な未婚女性の卵子凍結について、最新の意識調査の結果を紹介するとともに、生殖医療の現場で、卵子凍結を希望する健康な未婚女性と向き合ってきた医師からの報告もあります。さらに、卵子の提供や売買に伴う法的な課題についても議論します。

1. 背景

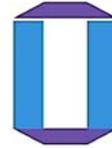
卵子の凍結保存は、がん患者における化学療法や放射線療法に伴う卵巣機能の低下に備えるために行われてきました。しかし、この技術は健康な女性にとっても魅力的なものです。

米国では、アップル社やフェイスブック社が女性職員の卵子凍結保存への助成を始めており、日本でも千葉県浦安市が、市民に対して「健康な女性の卵子凍結保存」に助成を行うことを発表しています。そのような中、将来の出産に備え、独身だった 41 歳の時に自分の卵子を凍結保存した大阪府内の女性看護師（44）が 2015 年に、その卵子で女兒を出産していたことが報道されました（2016 年 2 月 2 日共同通信）。

本シンポジウムでは、最新の全国調査データにより「健康な女性の卵子凍結」に対する意識（科学研究費補助金基盤研究（B）『配偶子・性腺凍結保存に伴う「生殖年齢の変化」「商品化」に関する学際的研究』により施行）を明らかにするとともに、生殖医療の現場で、卵子凍結を希望する健康な未婚女性と向き合ってきた医師からの報告もあります。さらに、卵子の提供や売買に伴う法的な課題についても議論します。

2. イベント概要

- 名称 第 8 回「生と死の倫理」セミナー
公開シンポジウム「健康な女性の卵子凍結を考える」
- 日時 平成 28 年 6 月 17 日（金）14:00～16:40



PRESS RELEASE

■会場 岡山大学鹿田キャンパス臨床第1講義室

■プログラム

- 14:00～14:20 あいさつ「配偶子凍結の現状と意識：全国調査から」
岡山大学大学院保健学研究科 中塚 幹也
- 14:20～14:40 「健康な女性における卵子凍結保存に対する意識：
生殖医療施設代表者調査 2015 から」
岡山大学大学院保健学研究科 博士前期課程 薬師地 仁美
- 14:40～15:10 「社会的適応による卵子凍結が必要な理由」
医療法人オーク会 中村 嘉孝
- 15:20～15:50 「凍結配偶子をめぐる裁判例」
名古屋経済大学法学部 宍戸 圭介
- 15:50～16:20 「商品としての凍結配偶子」
岡山商科大学法学部 粟屋 剛
- 16:20～16:40 総合討論

<お問い合わせ>

岡山大学大学院保健学研究科
教授 中塚 幹也
(電話番号) 086-235-6538
(FAX番号) 086-235-6538